慶應義塾大学出版会

新刊案内

2019 11月

〒108-8346　東京都港区三田 2-19-30
Tel: 03-3451-6926 ／ Fax: 03-3451-3124
http://www.keio-up.co.jp/

平積み印のついている本には特にご注目下さい。**平積み**いただければ幸いです。

思想 または ジェンダー

ひれふせ、女たち 平積み

ミソジニーの論理

ケイト・マン（コーネル大学哲学科准教授）［著］／小川芳範（翻訳家、ソーシャルワーカー）［訳］

ココに注目！

- **ミソジニー（女性嫌悪）についての画期的で極めて重要な著作。**
- **フェミニズム思想を刷新したと評価される、アメリカのベストセラー。**

現在、「ミソジニー（女性嫌悪）」はホットトピックとなっているが、そこにはいつも誤解が付きまとう。ミソジニーとは正確には何なのか？　セクシズムとはどう違うのか？ 性差別的なジェンダーロールが弱まりつつある中、なぜミソジニーは増幅する傾向にあるのか？ 本書では、ミソジニーを分析哲学的アプローチで探究・定義し、根底にある歪みを明らかにする。

本体予価 **3,200 円**　A5 判並製／ 420 頁
ISBN 978-4-7664-2635-9　C0010
対象：一般（ジェンダー問題に興味のある層）
部数：★★★★★★
配本予定：11 月上旬

類書 レベッカ・ソルニット『説教したがる男たち』左右社
イ・ミンギョン『私たちにはことばが必要だ』タバブックス

【刊行記念フェアのご案内】

タイトル ：「〈女嫌い〉 社会をぶち壊せ！」

この世界では、女性が女性であるだけで差別されたり、攻撃されたりすることは日常です。最近では医大の入試差別問題が記憶に新しいです。#MeToo による声で可視化した女性差別は根深い「ミソジニー（女性嫌悪）」を原動力としています。ミソジニーは単に「女性を嫌うこと」ではありません。それは、男性中心的な家父長制社会を維持するために良い女性／悪い女性を腑分けする「魔女狩り」なのです。本書は「ミソジニー」とは何かを定義し、そのメカニズムを初めて明らかにした革新的な本としてアメリカでベストセラーとなりました。本書によってフェミニズム思想の新たな 1 ページが始まります。ご期待ください！　　　（編集担当 M）

※フェア用のブックリスト（約 30 点）は、現在作成中です。ご興味がありましたら、営業部販売課（03-3451-6926）まで、お気軽にご連絡ください。出来上がり次第、データまたは FAX にて、リストをお送りいたします。

※本書は、2019 年 10 月号にて、イチ押し書籍としてご案内を差し上げております。注文が重なった場合には、多い方の冊数で進めさせていただきます。

部数は、★で約 500 部を表します。

社会
社会問題
または
法律
司法制度

司法通訳人という仕事
平積み

知られざる現場

小林裕子（明海大学外国語学部教授、司法通訳）［著］

☞ココに注目！

- **知られざる職業と、それにまつわる社会問題を明らかに。**
- **通訳人としての実務経験から、司法通訳の質向上と制度化を訴える。**

捜査や裁判の場に然るべき能力をもつ通訳がいなければ、公正な刑事裁判を実現することは出来ない。しかしながら、日本において司法通訳は未だ制度化されていない。そもそも司法通訳とはいかなる仕事で、どの様な能力が必要なのか。現状にある問題を挙げ、専門職として制度化が望まれるこの仕事を紹介する。

本体予価 **1,800円**　四六判並製／192頁
ISBN 978-4-7664-2637-3　C0036
対象：社会問題に関心がある一般読者、
　　　司法制度や裁判実務に関心がある読者
部数：★★★★
配本予定：11月上旬

類書　井田良・太田達也編『いま死刑制度を考える』
（慶應義塾大学出版会）

（書影イメージ）

【主要目次】

Ⅰ　司法通訳とはどのような仕事か
Ⅱ　プロフェッションとしての司法通訳
Ⅲ　来日外国人犯罪、刑事手続きの現状
Ⅳ　司法通訳人に法律知識は必要ないのか？
Ⅴ　イメージの違い、厳密な通訳に必要なこと
Ⅵ　グローバル化する社会と司法
　　―司法通訳の能力向上のために必要なもの

【関連報道】
NHK「おはよう日本関東甲信越」(2019/07/30)『需要高まる司法通訳 人材確保とレベル向上を』
朝日新聞 (2019/07/27)『裁判で誤訳、最高裁まで争い「法廷通訳」質にばらつき』
毎日新聞 (2019/04/06)『外国人増加の時代に法廷通訳の登録者が減る理由とは』

※本書は、2019年10月号にて、イチ押し書籍としてご案内を差し上げております。注文が重なった場合には、多い方の冊数で進めさせていただきます。

部数の★は、1つで約500部を表します。

西洋文化史
または
社会
社会問題

ドラッグの誕生

一九世紀フランスの〈病・狂気・犯罪〉

渡邉拓也（大谷大学社会学部准教授）［著］

☞ココに注目！

- **薬とドラッグはいつ分かれたのか？**
- **社会的認識の変化が起こった歴史的過程を明らかにする。**

患者が犯罪者になる瞬間――。近代国家形成過程の19世紀フランスの社会史を克明に分析し、「正常」と「異常」を峻別する現代社会に連なる病理を解き明かす。

本体予価 **4,000円**　A5判上製／256頁
ISBN 978-4-7664-2640-3　C3022
対象（社会文化史を専攻する）研究者、大学院生
部数：★★
配本予定：11月下旬

【営業部からのおすすめポイント　～医薬品からドラッグへ～】

薬物の歴史を振り返ってみると、現在ドラッグと呼ばれているもののほとんどには、まず「医薬品」として医療分野で用いられていた痕跡が見られます。その代表例は、古代より強力な鎮痛剤として知られていた阿片製剤ですが、19世紀ヨーロッパの近代化の流れの中で、これらの薬物を危険視する動きが起こり、各国での法規制へと繋がっていきました。
本書では、ヨーロッパ各国の内、法規制への動きが一番早かった国・フランスの状況を分析し、薬物依存者が患者ではなく逸脱者とみなされていく過程を丁寧に描いていきます。
……逸脱の歴史から見えてくる、現在の危険薬物対策の問題とは？

関連の既刊書はこちら！

逸脱の文化史

本体価格 **2,400円**　四六判上製／244頁
ISBN 978-4-7664-2592-5　2019年4月
小倉孝誠 著
近代フランスの社会は、男女の身体、情動、欲望をめぐってどのような規範を課し、逸脱はどのように表象されたのか？　小説、自伝、日記、医学書、性科学の啓蒙書などの言説をつうじて読み解いていく。

部数の★は、1つで約500部を表します。

今月の別刷り注文書のご案内

別刷り注文書

下記の書目については、それぞれ同封の別紙（A4判色紙）にて詳細をご案内いたしますので、書籍内容はそちらで御確認いただければ幸いです。なお、注文用紙（短冊一覧）と別紙の双方に注文欄がございますが、どちらに記入していただいても構いません。
注文数が重複した場合には「多い方の発注数」にて対応させていただきます。

宗教

イスラーム法の子ども観

ジェンダーの視点でみる子育てと家族

小野仁美 著
本体予価 **5,800 円**　A5 判上製／ 304 頁
ISBN 978-4-7664-2641-0　C3014

言語学

小児失語症の言語回復

ランドー・クレフナー症候群と自閉症の比較から

星浩司・宮里恭子 著
本体予価 **6,000 円**　A5 判上製／ 200 頁
ISBN 978-4-7664-2639-7　C3080